

平成30年度～令和2年度 第3回山梨県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和元年12月3日（火） 午後2時～3時30分
- 2 場 所 県立図書館 多目的ホール
- 3 出席者 (敬称略)
- (委員) 長谷川千秋、廣瀬敏夫、田中祐光、西尾敏己、藤巻愛子、近藤裕子、
藤森一浩、山内彩
- (事務局) 県立図書館：小尾副館長、塚脇次長、千野司書幹、奥秋総務企画課長、
三澤資料情報課長、飯沼サービス課長
- (社会教育課) 若尾課長補佐
- (指定管理者) 金原支配人

4 会議に付した議案

- (1) 図書館評価について
- (2) 令和元年度事業の進捗状況について

5 議事の概要

(1) 議長選出

事務局 「山梨県附属機関の設置に関する条例」第6条第1項に「会長が議長になる」旨、規定されている。については、長谷川会長に、議事進行をお願いする。

議長 次第により協議に入る。まず、「図書館評価について」事務局から説明をお願いする。

事務局 ①山梨県立図書館の基本的運営方針と評価項目・評価指標一覧(平成30年度)、②平成30年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について資料より説明。

議長 只今、「図書館評価について」について説明があった。何か質問、意見等があればお願いする。

委員 利用者アンケート集計結果であるが、良いか悪いかしからないので、具体的にどこが良かったのかとか、何が悪かったのか見えにくいのでもう少し記入欄を増やした方がどう改善していけば良いのかが分かるのではと思う。

レファレンスについては、なかなか周知が難しいと思うが、利用に関してのイベントをすることなども必要なのかなあと思う。

事務局 アンケートについては、自由記述欄の意見がまとめてあるので、これを後日お

送りする。

議長 自由記述覧が別にあるということで、また、それを見ていただければ分かるということである。

委員 博物館で「通信簿」を付けるという事業をしている。同じように評価をしながらやっているが、自分たちで体験することが項目に入っており、かなり厚い冊子になる。積極的にやるという気持ちがないとできない内容になっている。どうしたらより良くなるのか具体的に自分達で考えたり、もっと積極的にどうしたら自分達でより良く使えるかということを考えたりする場を与えるということも重要であると考える。

委員 外部評価のコメントの書き方を具体的に教えてもらいたい。

事務局 「外部評価」欄を拡大してコメント用に作り直しているので、そちらにご記入頂きご返送頂きたい。

議長 我々が外部評価の委員という形になっているので、「外部評価」欄に書き、図書館職員の評価が「自己点検・自己評価」欄に書かれている。

委員 主催者研修の参加が減少しているとのことだが、内容はどのようなものなのか。また、テーマなどはどのようなものか。

事務局 図書館職員、ボランティア、学校職員等に向けた研修となっていて、資料保存やサービスについて等の専門的な内容について実施している。また、子供の読書に関する専門研修もいくつかあり、山梨大学と一緒にさせていただいている「子どもの読書オープンカレッジ」という幅広い層に向けた講座もある。

委員 講師派遣ということで、具体的にどのような活動をしているのか少し教えてもらいたい。

事務局 子供の本に関する要請が多いが、「子ども読書支援センター」を設置し子どもの読書に関わるさまざまな方をサポートしている。例えば、学校で読み聞かせのやり方や、ブックトークの方法についての講座などを開いている。生徒向けにする場合もあるし、先生向けにすることもある。

他にも市町村立図書館からレファレンス・サービスについて研修してほしいといった要望があれば対応している。

委員 人材育成事業としての市町村支援サービスで、例えば、市町村職員を含めた中で専門研修の内容が合っていて充実しているのか、あるいは来年度に会計年度任用職員制度になり、なかなか研修を受ける機会が少なくなることなどが危惧され

ているが、その背景は把握しているのか。

レファレンスサービス指標を見直したということであるが、経過がわからないので、どういう理由でどのように見直したのか。

また、職員の対応能力の向上が急務とあり、そのとおりであると思うが実質的に司書の方がどの程度研修に出ているか、また、そのための予算は計上されているのか。

事務局 市町村職員の人材育成については、内容のマッチングがきちんとしているか確認し、ニーズもきちんと把握していかななくてはならないということで、担当の方で取り組んでいる。一方で、市町村側で人員が厳しく研修に参加できないといういろいろな所属から言われている。これについては、こちらから出かけていく機会、例えばブロック単位に研修機会を設けてもらえればという提案もしている。ただし、県図書館でできる範囲でいうことになる。このような研修機会を市町村立図書館側で一からつくるのは難しいので、メニュー化やパッケージ化することも検討すべきと考えている。

レファレンスサービスの指標の見直しについては、以前はレファレンスサービスを非常に幅広く捉えた指標で、実際に図書館の資料をどのくらい活用したのか、分かりづらい状況があった。単純な所蔵検索や利用案内的なものを除き、ある事柄についての資料調査等のより深い調査をとまなうものの数として指標にしている。

また、地域資料に関するサービスについては山梨県立図書館としてもっとも力を入れているところでもあり、独立した1項目として指標にした。

職員の対応能力向上では、予算や人員の制約で研修に出にくい面もあるが、子供の本に関する研修やビジネス支援をテーマにした研修などは、予算化して継続して参加している。その他、館内に講師を招き、例えば認知症サポート研修の実施、県の職員向け研修への積極的な参加等の取り組みを行っている。

議長 外部評価をする上で聞きたいことが3点ある。

デジタルアーカイブのコンテンツを拡充したとあるが、ジャンルは主にどういったところか。

レファレンスサービスについては、なかなか認知度が低いということであるが、今、高校で総合的な探究の時間が始まっていて、調べ学習をする機会が増えていると思うので、そこと連携すると伸びていくのではないかと思う。

達成率があまり思うように上がっていない部分については、質的な部分で評価できることころがあれば教えてもらえればと思う。また、逆に達成率がとても高い部分についてもこういった質的な部分があると積極的に評価することが良いと思うので教えてもらいたい。

事務局 デジタルアーカイブについては、ジャンルとしては著作権の処理の関係もあるので、基本的に地域資料の古いものを中心となる。以前は、古文書、古記録など

を所蔵していたが、これらについては県立博物館にすべて移管している。移管前に行った「甲州文庫」というコレクションの一部をデジタル化したものは、そのままデジタルアーカイブで公開している。それ以降は主に明治以降の印刷物の中で例えば議会議事録、統計資料等も対象にしている。地道な作業であるが、数量が蓄積されることによってツールとして役に立つといった資料を中心にやっている。

レファレンスサービスについて、学校との関係の中でということであるが、今課題でもあり取り組んでいるところでもある。総合的な探究の時間で使っただけ学校もあり歓迎しているが、まだそれぞれの授業の進め方とこちらの体制のすり合わせがうまくいっていないという状況があり、学校への働きかけをしていきたい。

評価の数値が低い項目の中で、図書館が主催する研修事業への参加者の減少は、市町村側の状況があるかもしれないが、県立図書館側で工夫をしていかなければいけない部分である。結果については真摯に受け止めて対策を取っていく。

また、主催事業の参加者は、新館の開館時は非常に多かったが徐々に減少してきている。ただし、施設の利用率が高く大きな会場が確保できず、結果的に参加者数が減少するという面もある。例えば、館長企画事業で著名な作家の講演などは応募が多く、常に定員オーバーとなるが、大きな会場が確保できないなどの課題もある。運営の方法を考えていかなければいけないと考えている。

レファレンスサービスは今回指標の見直しを行ったが、高めの目標値に対して、数値としては及ばなかった。質的な評価の方法も考えたいが、まずは件数を上げていくことに取り組んでいく。

評価の数値が高い項目では、「やまなし読書活動促進事業」で「贈りたい本大賞」の応募数を指標としているが、学校が積極的に参加し、かなり定着してきたのではないかと思う。学校関係に協力してもらっているので数値は上がっているが、一般の方の応募数も上げていく必要があると考えている。

ほとんどの項目でほぼ目標水準を達成する形になっている。目標数値の妥当性も含め、外部評価のコメントをいただければと思う。

委員 数字に表れないところを評価したいが、例えば、地域の拠点として、つながりの場として図書館が利用されてこのような活動がされたとか、地域活性化の基盤として寄与したとか、そういう資料とかの話があれば数字以外の部分で評価できるし、県立図書館ならではといったところで行われているなあといったことも感じるが、その辺がどうなのかなあといったことがあれば教えてもらいたい。

事務局 その辺を評価できるように、評価シートだけでない要素もきちんと開示していきたい。今期の協議会では、日常のいろいろな事業の計画、報告を中心にしてるので、それと併せて評価していただければと考える。ただ、評価時点が、前年度になるので、前年度の実績をあらためてご確認頂きたい。

議長 次に「令和元年度事業の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局 1 1 月末までの実施状況であるが、順調に実施している。評価指標の中にもあるが、入館者数は10月末で昨年より多い数値で推移している。

さらに、貸出数は平成25年度の評価事業開始以来、毎年減少していたが、今年に入って若干増加に転じている。さまざまな取り組みが、少しずつ効果を上げてきているのではないかと思う。直近では、館長企画事業、開館記念事業ということで、なかにし礼氏の講演会を「贈りたい本大賞」表彰式と併せて実施し盛況であった。

資料費は全国的に予算削減の傾向が続いている中で、なんとか現状を維持しており、概ね計画通りの資料収集を行っている。

議長 次に、項目ごとに（資料収集・管理、サービスについて、「贈りたい本大賞」について）事務局から説明をお願いします。

事務局 資料により説明

議長 ただ今の説明について、質問はあるか。

委員 「贈りたい本大賞」の応募数がすごく多い学校と少ない学校があるが、多い学校は熱心な先生がいるなど、何か特徴があるのか。

事務局 それぞれの学校の事情が大きいと思う。例えば、夏休みの課題でやっている学校もあるが、その場合はいくつかの選択肢がある中で「贈りたい本大賞」を選んでもらえば良い。学校を挙げて取り組もうという学校もあるし、そうでなければ生徒の自主性に任せるということもある。

議長 今年度の応募数は、平成26年度から比べるとものすごい伸び方をしていることがわかる。すごいことであると思う。

同じく、やまなし読書活動促進事業の「図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊。」のリーフレットがとても良いと思った。図書館の名称は書いてあるが、個人名は書かれていないので名字だけでもいいので書いてもらえば、誰さんが推薦したんだという感じがしてさらに良いと思う。今はなかなか名前を出すことが難しい時代だが検討をお願いしたい。

議長 他に質問、意見等あるか。

ご意見を十分に頂いた。なければこれで協議事項を終了させていただく。

「その他」ということで、委員の皆様から何かあるか。なければ、事務局から連絡事項はあるか。

事務局 第4回協議会は、令和2年2月下旬頃を予定している。次回も出席をよろしく願います。

議長 それでは、これで本日の議事は終了した。これをもって、議長の任を解かせて
いただく。ご協力に感謝する。